

“海区越境の操漁

は止めてほしい”

出水漁協 葦北漁協らに抗議

水俣病の影響で不知火海の漁場を失なった葦北郡葦北町漁協と同郡津奈木漁協所属の漁船二十五隻が

現在葦北町漁協と出水漁協の間で解決に努力しているが、地元漁民はせっかくの漁期に出漁出来ない

十一日熊本、鹿兒島の県境付近の海で車エビの操漁中、鹿兒島県出水漁協から“海区越境の操漁は止めてほしい”との抗議を受け、漁獲期だけに関係者は頭を痛めている。

水俣市袋と出水市米ノ津の近海はいま車エビの最盛期で、十日葦北町から同海域に出漁しかなりの水揚げがあつたので十一日もひきつづき二十五隻の船団で操漁に向かつたところ出水漁協から待ったの通告を受けたもの。

同漁協の話では数年前からアカヤマエビ漁期には出水から不知火海に操漁にくるし、冬の車エビ期には熊本側から出水海域に出漁しており、これまで一度ももんちやくはおきなかった。それが昨夏天草の樋島で出水の漁船がアカヤマエビの操漁中、竜ヶ岳漁協からしめ出しを受けたのでこの報復ではないかとみている。